

だれもが安心して学び、働ける学校・社会の実現をめざして

- 早朝から夜遅くまでがんばり続けないと仕事が終わらない実態を改善したいです。職員をふやして！！
- 子どもを帰した後の事務仕事は時間がいくらあってもたりません。
- 休憩時間に休憩した（できた）事はほぼ無いです。
- 1日12時間働いています。残業手当がほしいです。
- 毎日残業して家に着くなりすぐ夕飯のしたくをして…。仕事やめたくくなります。せめて8時間労働をキープしてほしい。
- 早出、残業、持ち帰りが常態化しており、近年は年を追うごとに多忙になっている印象があります。睡眠時間を削らざるをえないため、健康を維持していくことができるか不安です。
- 人員減少により、PCに向かって行う仕事が増えています。そのため、子どものための教材準備ができないまま、日々過ぎてしまっています。

「せんせいふやそうキャンペーン」署名に県立障害児学校から寄せられた声です。長時間過密労働が教職員の生活と健康を壊し、子どもたちの発達する権利をも奪っている実態が告発されています。

教職員の長時間過密労働は、教育に十分なお金をかけない県や国の政策によってもたらされてきました。業務の増大、障害の多様化・重度化に見合う教職員が配置されず、それどころか、重複障害の認定基準の変更などにより教員が減らされてきました。障害児学校の過大規模・過密化はまだまだ解消されていません。学校が過大規模になるほど、教職員の配置割合は減少します。本来配置されるべき産育休・療休の代替教員でさえ何ヶ月も配置されないのは、教員免許更新制、非正規職員の多用、そして何より学校がブラック職場となっていることが原因です。

神奈川県財政は6年連続で黒字であるにもかかわらず、教育・子育て・福祉・医療等の予算が削減・抑制されてきました。国においても、文科省の文教関連予算は削減・抑制され続ける一方、一機116億円の戦闘機147機の購入を計画するなど、軍事費は大幅に増大し続けています。「お金がない」のではなく、「お金の使い方」が問われています。

神障教組は、障害のある子どもたちの教育条件の改善や教職員の労働条件改善のために、保護者や全国の仲間と共同で様々なことにとりくんできました。妊娠者体育授業免除の代替非常勤配置の改善、臨任・非常勤職員の休暇制度の改善、障害児学校の新校建設、トイレの改修など、私たちのとりくみがあったからこそ実現しました。このことに確信を持ち、学校現場の困難な状況を改善させるために、引き続きとりくんでいきたいと思います。

7月21日の参議院選挙は、教育・福祉・医療・介護などの充実へと舵を切るのか、憲法9条を改定し、「海外で戦争する国」づくりを許すのかなどが問われる極めて重要な選挙です。教職員組合の原点である「教え子を再び戦場に送らない」の決意を新たに、憲法、教育、子育て、福祉などについて、職場で地域で、大いに語り合しましょう。

困難なときだからこそ、集まって夢（要求）を語りましょう。そして夢（要求）の実現のために仲間をふやしましょう。声をかけることで新採用や青年教職員が組合に加入しています。この夏、多くの仲間を組合に迎え入れましょう。

障害者権利条約や日本国憲法が生かされ、障害の有無、年齢やジェンダーなどにかかわらず、だれもが安心してその人らしく、学び、働き、暮らせる学校・社会の実現をめざして、力を合わせていきたいと思います。